

[平成 21 年度 MISA 人財育成委員会向け資料]

平成 21 年度実施

新人研修（認定職業訓練）に対するヒアリング調査報告

（受講企業および受講者へのヒアリング調査結果）

（第 1 版）

平成 21 年 9 月 17 日

社団法人宮城県情報サービス産業協会
人財育成委員会 新人研修検討部会

ヒアリング実施者：仙台ソフトウェアセンター（NAVIS）

1. ヒアリング結果の全体総括と来年度以降への示唆

全 41 日・受講料 410,000 円

	項目	受講企業の意見等の主要点	運営側総括及び想定される対策
1	全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的な印象は良好。仕事の段取りや自発的な行動力につながる付加価値的な要素については各社とも特に評価が高かった。 ・ 継続企業では本訓練を前提とした各社の新人教育スタイルが確立していると言える。今年度からの参加企業においても（新卒採用を行った場合が条件となるが）来年度継続の意向を頂けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度からの新規受講企業においても、合同訓練によるコミュニケーション面での鍛練の評価は非常に高かった。 ・ 技術系コースは全体的な評価としては高かったものの、部分的な改善は必要。
2	ビジネス基盤養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本コースはほぼ確立しており各社とも評価・期待は極めて高い。 ・ 特にプレゼンは昨年から発表見学会を設けたこともあり、企業担当側としても有益な機会となっている。 ・ 肯定的な意見を頂いた中でも更なる要望（以下）はあった。 →例えば挨拶をしないときがあったら叱る等、もっと厳しい指導を望む。（全コース共通） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中でもマナー、プレゼンの評価が高かった。受講企業以外への発表見学 PR は、引き続き検討していく。 ・ 全コースを通してとなるが、指導面や事後評価報告において一層厳しく行ってほしいという要望が目立った。<u>これまでの“研修=お客さんの扱い”から社員教育的なスタンスへの転換を図ることについては今後検討したい。</u>
3	IT 技術基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体のカリキュラム構成についての満足度は高い。 ・ 後のオブジェクト指向コースに参加していない一部の企業からは、要件定義からテスト・終結までの開発プロジェクト全体を体験できるコースであってほしいという要望もあった。 ・ 定員超過のため2クラス設定した基礎コースに関して、講師固有の教え方の違いに対する指摘、クラス間・グループ間の受講生レベルのアンバランスについての不満が一部あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「全体の開発の流れの体験」や「コミュニケーション」「技術の網羅性」などの主要な部分については昨年に続き評価が高かったが、<u>更なる品質意識と納期意識、基盤技術が定着できるような改善は必要である。</u> ・ 現在の「基礎」と「応用」というコース設定をやめ、<u>開発全体の流れ・マネジメント的内容を重視したコース、開発基盤力・品質を重視したコース</u>を設定し、問診票などを用いたスキル事前調査などによりコース振り分けを行うなど各社の多様なニーズに応えるコース設定とすることも要検討である。

4	オブジェクト指向開発	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>設計からマネジメントまで含まれておりボリュームが多く消化しきれない、新人には難しすぎる、などの意見</u>が複数社で指摘された。 ・業務プロジェクトの模擬体験、Java プログラミングを中心とした開発基盤力養成という構成自体は受け入れられている。 ・今年度利用しなかった企業からも、<u>もっとオブジェクト指向の基本的なところの定着に重点を置いてほしい</u>という要望が目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人の事前スキルが年々低下傾向にあることにも一因があるのは否定できない。事前スキルレベルをより詳細に把握し、それに合わせてカリキュラムも柔軟に対応することで原則、対応したい。 ・<u>課題演習における負荷を見直すと共に、設計やプログラミング基礎力、品質・納期などの意識をしっかりと定着できる内容へと見直しを図りたい。</u> <p>→具体的には、課題演習において時間的に難しい部分は講師から援助を入れる、自由課題から講師指定課題へ転換する等により、業務プロジェクト模擬体験という本来の目的は保持しつつ演習ボリュームの適正化を図り、コース全体のカリキュラム調整を検討する。</p>
5	技術系コース全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>入社前の事前学習用として資料を配布する、又は入社前学習の目標となる前提スキル指標を事前に与える等、</u>数社から MISA としての取り組みに関して提案が上がった。 ・成果発表内容を開発演習プロセスでの気づきや振り返り、受講者自身の学習成果を主体とすることに転換した点については企業担当、受講生共に満足度は高かった。 ・<u>今の技術者は“話す”“発表する”ことが上手ではないという問題意識が高く、</u>技術系コースにおいても発表の部分について内容充実化を求める声が目立った。 ・<u>仕事の段取り力や自発的な行動力、品質・納期意識など、いわゆる社会人基礎力的な要素を同時に鍛えてほしいという期待が</u>各社とも強くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年来、文系や未経験者の受講割合が高まっており、技術レベルは年々低下してきている。<u>事前保有スキルの把握は今以上に細かいレベルで行い、その結果に合わせてカリキュラムを微調整していく等、柔軟な対応は必要。</u> <p>→入社前教育を MISA として行い、事前スキルレベルを底上げ調整する仕組みをつくることも引き続き検討。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>社会人基礎力育成（主体性、実行力、計画力、規律性等）</u>を重点課題とする。 ◆MISA 技術者に求める行動指針(例えば 10 か条)を MISA として新たに作成し、期間中毎日それを意識して行動させる。 ◆上記と社会人基礎力について事前と中間、事後で評価・フォローを行う。中間では面談による評価・指導を取り入れる。 <p>※行動指針の作成、中間時期における面談(評価・指導)については MISA 人財育成委員によるものとする。</p> </div>

6	運営面での改善提案 (各コース共通)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者個人日報、ブログでのクラス報告は多くの企業で日々の教育管理の参考となっており概ね好評である。 ・日報を具体的に書けない受講者もあり、記載内容に関する企業側担当者の不満も一部見られた。 ・交流会は新人同士の横のつながりという面で各社とも期待は大きい。わざと交流させる仕組みを入れるなどの提案もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練自体に大きく影響が出ないよう日報作成の担も考慮しながら、日報フォーマットや運営上の仕掛けなど工夫を凝らしたい。 ・社会人基礎力の一環として日報へ具体的な行動事実を表現できるよう指導を強化していきたい。 ・交流会については、交流を促す仕組み（訓練同様の座席指定、自己紹介、代表によるスピーチなど）の導入を検討したい。
7	助成金	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金活用の周知はある程度行き届いた段階であるといえる。 ・報告用の研修内容資料に関して、提出先の審査条件に建前上合った資料を提供してほしいという要望が一部あった。具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> ◆テキストの目次に掲載している項目だけ順番どおりに並べたカリキュラムが必要（東京管轄のケース）。 ◆フォローアップ研修のカリキュラムは、新人研修の復習の内容から外れた部分があると今後、指摘を受ける可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金提供元の都合に合わせるためのNAVISの事務負担も著しく増大しており、NAVIS側でもそれに対応できるような体制を整える必要がある。 ・NAVISの方で、助成金申請企業各社の方で対応すべき事項との線引きも考慮しつつ、助成金運用のノウハウをさらに蓄積し、MISA訓練への確固たるサポートと訓練のさらなる利活用へつなげていきたい。 ・委員会レベルでは、さらなる助成金の活用と受講の促進に努めていただきたい。
8	フォローアップ研修	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できない企業も含めて、内容的には全般、理解されている。ただ、新人研修後は社外へ出向している等のスケジュール的理由により参加できないケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は本研修受講者だけでなく、MISA全体の新入社員を対象とした研修として展開してはどうか。 ・今年度のフォローアップ研修は、9/9(水)～9/10(木)の2日間、4社9名で実施。 <ul style="list-style-type: none"> ◆フォローアップ研修内容 →添付：参考資料2 ◆アンケート集計→添付：参考資料3
9	来年度想定される課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の景気事情により各社の新卒採用が減少し、それがMISA訓練参加者数に影響を及ぼすことが懸念される。 ・MISA会員外の企業へ窓口を積極的に広げていくかについて、会員外企業の受講料設定と併せて検討が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> (参考：ヒアリング時の各社見通し) ・採用する方向であり、来年もMISA訓練を利用したい → 5社 ・採用する方向だが人数・社内体制を見て利用するか判断 → 3社 ・採用については未決定。採用する場合はMISA訓練を利用 → 3社 ・来年度の採用は現時点では予定がない → 1社

2. ヒアリング結果（生データ）

ヒアリング実施者：訓練運営担当 金野（NAViS）

実施期間：2009年7月17日～8月6日の期間における訪問ヒアリング調査

※対象全14社（受講者総計53名）中、今年度IT技術系2コースのうちいずれかを
利用いただいた企業13社中、12社に打診を行い訪問

調査対象：研修担当者クラス、受講者の2者（会社により異なる）

対象企業①

今年度受講生数：5名（ビジネス基盤5名、IT技術基盤・応用4名）

（訪問1回目）

日時：2009年7月17日（金） 10：30～11：00

出席者：

- ・対象企業：受講者2名
- ・MISA：金野（NAViS）

（訪問2回目）

日時：2009年8月4日（火） 10：00～11：00

出席者：

- ・対象企業：研修担当者1名（副部長）
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

（受講者A）

- ・学生である程度プログラミングの基礎的なところはやっていたので、（応用コースは）基本を飛ばしつつ応用的なところはしっかりやるという講師（浅野）の進め方は、知っているところはやらずに済んだという面もあり効率的な講義だった。
- ・（チーム演習で一つのものを作ったという経験は）現在の携わっている業務レベルでは効果が感じられる段階までの仕事は行っていないので実感がない。有益だったと思うが、もう少し多人数で演習をやりたかった。（当初4人のチーム構成だったが、1名が前提スキルの関係で基礎クラスに移動になり、また応用クラスのため補充がきかず3名での演習となった。）
- ・（成果発表内容が学習成果を主体にしたものである点に関して）発表する側としても自分の成果を発表できたことは良かったし、発表自体もやり易かった。
- ・中間発表では、データベースに手をかけた時期に行いその部分についての指導や意見も頂きたかった。それゆえ自分としてはもう少し遅い時期に実施してほしかった。

(受講者B)

- ・ 学生時代C言語はある程度やっていたので（受講者Aと同じく、応用コースは）応用的な内容を学習できて良かった。
- ・ （成果発表内容が学習成果を主体にしたものである点に関して）成果物の発表に特化したほうが自分としてはやり易かったと思うが、チーム演習では役割分担されるので自分の担当した部分しか、聞いている方の立場としては分からないと思う。それよりは各員の成果や感想などを聞けるほうが良いと思う。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・ 今年度の参加理由については、毎年少しずつ変えていると思うが、これまでのところ全体として良かった面が多かったからである。もちろん、場所が近いこと、価格、自社教育に当てられる社員が用意できないということもある。以前は東京に出していたこともあったが、もちろん費用がその分かかるし、研修中も自社の社員の顔を見れたほうがよいということもあるので、やはり仙台で実施したいという方針になった。総合的に考えると、MISA 訓練を利用する今の形態がいちばんよい形となっている。ただ、オブジェクト指向コースは利用していないのだが、その時期、その部分の教育についてはOJTとして実際の現場でやらせたいという考えを持っている。
- ・ MISA 訓練に期待する一番はやはり、他社の人とグループで学習することで身につくコミュニケーション能力である。過去に“ごちゃ混ぜにしてほしい”という要望を出したこともあったが、引き続き今のやり方を崩さずに実施してほしい。
- ・ MISA 訓練を終えた新人のスキルを見ると、やはり個人差がある。しかし、これはしょうがないことだと思っているし、MISA 訓練をやったほうがよいのは確かだと思っている。
- ・ 要望の1つとして、コミュニケーションという非常によいことをやっているが、もっと厳しくやってほしい。例えば、挨拶をしないときがあったら叱るだとか。当社内でも、必ず挨拶するよう指導を徹底している。
- ・ 技術系コース（IT 技術基盤）の要望だが、要件定義やテスト、レビューなど、プロジェクトの一通りの流れが分かる研修であってほしい。もちろん、短い期間で先生方が苦勞されているのも承知しているのだが。
- ・ IT 技術基盤の要素技術の構成はこれでよい。C言語から入ってもらったほうが、プログラムを分かってもらえる。あえて希望を言えば、Web アプリより Java アプリのほうがよいのだが。課題演習では、納期や品質を意識づけさせるところは継続的に厳しくやっていただきたい。
- ・ 受講者評価は大変参考になった。ただ、受講者が書いた日報で気になるところがある。簡単に「〇〇が理解できた」という報告があったが、何をどう理解できたのか具体的に書かれていないと教育管理としては分からない。改善されるとありがたい。

3. フォローアップ研修について

- ・正直なところ、今回、案内をはじめて見た。9月の参加については検討してみる。

4. 来年度の計画など

- ・来年は3人採用を予定しており、引き続き MISA 訓練を利用したいと考えている。

対象企業②

今年度受講生数：2名（全3コース・基礎コース）

日時：2009年7月21日（火） 13：30～15：40

出席者：

- ・対象企業：営業顧問1名、派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

（受講者A）

- ・現在は VB.net でのプログラムを修正する業務を担当しているが、研修で C 言語、SQL をやったことは非常に役立っている。しかし残念だったこととしては、例えば C 言語において例題に取り組む際、テキストのコードをそのまま写して動きを確認する程度までしか行わなかったため、自分で問題に対して考えて取り組むというような機会、プログラミングをする機会が少なかった。もう少しプログラミングそのものに取り組みたかった。

（受講者B）

- ・IT 基盤、オブジェクト両コースとも結果的に見ればチーム演習にかけられる時間が少なかったと思う。成果発表を期限として課題システムやドキュメントを完成までしなくてもよいと言われても、他のグループが残って作業をやっているを見れば、自分たちもやらなくてはと感じるので、結果的にオブジェクト指向のコースでは最後の週は残って作業することになった。チーム演習課題のボリューム面で検討の必要があったと感じた。
- ・チーム演習自体は1つの目標に向かって皆で終わらせるということが経験でき大変有意義であったと思う。ただ、IT 基盤コースでは“何をつくるか”から考えさせられ、考えることに時間を要した分がもったいなかったと感じる。課題を指定されたほうが時間的には適していると思う。オブジェクト指向コースでは計画の部分が長く作成したドキュメントも多かったのに成果発表では“図をのせなくていい”と言われて発表内容とはならなかったのが残念である。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・ PBL で実際に一通り作った経験というのが大変有益であると思う。グループでの演習、目標を持って作業をしていること、作業途中での苦勞している点など、日々持ち帰る日報を見て様子がよく分かったし、大変良かった。こういう研修でないと出来ない良い経験であると思う。また、新人研修を終えて会社へ戻ってからは社内研修を行っているが、それまで他の会社の人達といっしょに勉強してきたせいか、戻ってからも緊張感を持って取り組んでいることは大変ありがたい。
- ・ 成果発表会（オブジェクト指向コース）を見学したが、期限までに完成しなかった1チームに対して“完成させること”を言及する質問が参観者から上がっていた。今年度のPBLがプロセス重視であることが企業側へ十分伝わっていないのが原因であると思うし、普段から新人研修の様子をうかがっておらず発表だけピンポイントで見に来た人には発表趣旨が伝わっていないことも考えられる。また、発表の場でそういう質問が上がった際はその場で趣旨のちがいについて補足説明をしていただけると発表者側も困惑しなくて済んだかもしれない。
- ・ オブジェクト指向コースのUMLによる設計については、UMLは不要であると社内で議論もあがったことがあるが、設計の基盤技術を育成するという説明を受け納得できた。
- ・ 新人研修での残業ということに関しては、できれば避けたいという考えが基本であるが、ある程度の範囲で、またケース・バイ・ケースで対応してもよいと考えている。

3. MISA 新人研修に関する懇談

- ・ 研修内容やカリキュラムを見ると数年前と比べて全体的に非常に高度になった印象である。ただ、“ここまで高度であることを実際に出来ているか？”について現状をまず認識すべきである。例えば、オブジェクト指向コースの育成・到達目標には“基本的なマネジメントができる”とあるが、カリキュラムを見るとマネジメントの原理・原則をちゃんと講義日程として設けて教えていないとすればおかしい。また、プロジェクトマネジメントというものが、新人に対してこのコースの中で教えられるほどのものか？という面でも疑問がある。品質意識を持たせるという部分も、結果的に受講者の手応えとしては“成果発表のために必要な部分のバグ出し”に終わっているようである。教育であるからには原理・原則について最低限、講義項目として教えるカリキュラムになっていることが必要である。コース内容の“育成・到達目標”に謳っているものと“実際のカリキュラム”とに差が発生しているとすれば見直すべきである。
- ・ 言語に左右されない技術基盤育成ということでC言語、OracleをIT基盤コースで学習することは良いと思うし、当社のにも合っている。当社では新人に基本情報技術者を受験させる予定があるが、選択言語を見るとほとんどがC言語を選択していることもある。特に扱う言語、技術の構成としては問題ないようである。

- ・来年度は MISA 新人研修の総参加人数という面では非常に厳しい状況が予想されるが、例えば人数の少なくなってきた応用コースをやめるとか、全体的にスリム化し費用面で参加しやすい工夫をこらすなど思い切った手を打ってはどうか？
- ・フォローアップ研修については、募集案内での研修内容の表記方法が気になる。助成金の報告や申請に関わる書類として見た場合の話であるが、フォローアップというからには新人研修でやったことに対しての復習（フォロー）である内容と見られなければ指摘を受ける可能性もあるかもしれない。具体的には、2日目の研修タイトル「問題解決能力」だが、今後はビジネス基盤コースとの関連付けがなされやすいタイトルのほうがよい。あくまでタイトルの部分だけであるが。

4. フォローアップ研修について

- ・今年度のフォローアップ研修には参加させる予定で、既に申込済みである。

5. 来年度の計画など

- ・採用をするかが検討中であるが、採用することになれば利用したい考えである。
- ・費用面では、当社としては補助金を使っていることもあり、特に負担であるという話にはなっていない。

対象企業③

今年度受講生数：2名（ビジネス基盤2名、IT技術基盤・応用1名）

日時：2009年7月22日（水） 10：30～12：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名（専務取締役）、受講者1名
- ・MISA：金野（NAVIS）

1. 受講者の生の感想

- ・ある程度、学校でC言語や、データベースではAccessをやってきたので、全体としては復習をしたという印象だった。しかしOracleやPHPをやったのは初めてで、Webページも作ったことがなかったので、それらを勉強できたのは収穫であった。
- ・成果発表の内容は、プロセス重視型よりもシステムの説明に特化したほうが個人的にはよいと思う。実際は作るので精一杯だった。プロセスがどうだったかまで行きとどかなかった。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・参加の動機としては、既に MISA 新人研修を取り入れた新人教育スタイルが会社として確立できているからである。非開発系の新人はビジネス基盤コースのみ、開発系の新人は技術系コースまで受講させる考えでいる。技術系コースは最後のオブジェクト指向コースまで受けさせるかどうかだが、研修内容がそのときの会社ニーズに合っているかで判断している。今年度、オブジェクト指向コースまで参加させなかったのは、今まで Java（オブジェクト指向）を会社として多く扱っていなかったからである。来年度は Java も必要になりそうな感じではある。
- ・MISA 新人研修は、基本的な考え方や基盤技術を習得するものという位置づけで考えている。それゆえ現在のカリキュラム構成や方向性については、これでよいと考えている。
- ・例年見られた“残って遅くまで作業すること”に関しては、新人研修で遅くまでさせることに賛成である。新人研修でも作業量を多くさせて苦勞させるべき、そういうことを体験させるべきと思っている。

3. MISA 新人研修に関する懇談

- ・新人研修に入る前から、予習用として何か資料（勉強材料）を配布してはどうか？入社前の学生から「何か勉強しておくことはないですか？」という問い合わせが結構あり、入社前から学習意欲を持っている学生は少なくないと思う。基礎コースの前提レベル低下の問題などにも効果が出るかもしれない。
- ・技術系のコースでは、発表（プレゼン）というものを内容の1つとしてもっと強く位置づけて指導してほしい。今の技術者はプレゼンが上手な人が不足している。せっかくビジネス基盤コースでプレゼンを体験したのに、技術系の成果発表では忘れてしまったかのように出来ていない。技術系のコースでも伝えることの大事さをもっと教えてほしい。
- ・品質に関しては理論的な講義（説明）をしっかりと講義の中で行うべきである。
- ・交流会とゲストセミナーを同日にして、セミナー講師が交流会に参加できるほうがよいのでは？ゲストセミナー終了時は質問とか出来なくても、交流会でなら意見交換なども出来るかもしれない。
- ・交流会では、わざと交流させる仕組みを取り入れてはどうか？例えば当社でも社員の交流会をやっているが、普段話さない人どおしで同じグループに座席指定したり、代表者に何かしゃべってもらったり、全員短い自己紹介をさせてそれに質問をさせたりとか、いろいろ取り組みをしている。
- ・訓練報告のブログについては、見ることを忘れがちな人もいるので、途中で何回かメールによる知らせを入れてくれるとありがたい。

4. フォローアップ研修について

- ・今年度のフォローアップ研修については 2 名とも参加させる方向である。キャリア形成

の助成金面でも予定している。

5. 来年度の計画など

- ・採用自体が今現状では予定がない。今後、状況が変わる可能性は残っているが、もし採用となった場合は MISA 研修を利用したい。

対象企業④

今年度受講生数：2名（IT 技術基盤 応用コース）

日時：2009年7月24日（金） 11：00～12：00

出席者：

- ・対象企業：役員1名、派遣担当者1名
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 訓練の感想（研修担当者）

- ・まずグループによる学習、演習が出来たことが収穫であり良かったと思う。新人どおしの交流ができたことも同じく良かった。
- ・成果発表会を見学して感じたことは、演習で手がけるシステムの中味をもっと充実化できないかということ。自分が開発職ということもあり、そういうことは期待してしまう。ただ、時間の問題があることを承知はしているし、また、こういうチーム演習ではどうしても受講者のレベル格差が生じてしまうなど、いろいろ難しい問題があることも認識している。

2. 今年度参加の動機について

- ・（今年度はじめて MISA 訓練を利用した動機に関して）例年、新人研修は社内でもまかっていたが、今年は社内講師の体制が整わなかったからである。また、人数が今年は例年に比べて少なかったこともある。これまでは5～8人の採用をしていたが、そのくらいの人件だとコスト的に社内技術者を一人、新人育成に専任させるだけの価値がある。これが新人2人だと外の教育機関に出したほうがコスト的に見合うという判断になった。
- ・（オブジェクト指向コースを利用しなかった理由に関して）当社の人材は、ネットワーク・サーバ構築系と開発系の大きく2つに分かれるが、今年採用した新人は前者として採用したからである。これが後者の開発系として採用していたらオブジェクト指向コースは利用していた。

3. 訓練に関する要望など

- ・カリキュラムの内容に関しては良いと思う。参加しなかったオブジェクト指向コースも今の時代の主要なものを押さえており同じく良いと思う。要望としては、助成金の関係で、審査要求に対応したカリキュラムを提供いただきたい。仙台でのことは分からないが、東京での助成金審査はかなり細かく厳しいことを書類に対して要求される。カリキュラムで言えば、使用したテキストの目次とカリキュラムが、順番、項目共に合致していないと認められない。また、テキスト以外のこと（例えば“まとめ”をする日程など）がカリキュラムにある場合なども審査ではねられる。研修カリキュラムがテキストの順番どおりでないことは認識しているが、そういう現実を説明しても審査では通用しないのが東京での状況となっている。現実がどうこうではなく、つじつまが合ったカリキュラムがあればよいと考えている。

4. 来年度の計画など

- ・来年の採用に関しては、現在の就職難により逆によい人材が取れるのではと期待し、例年より条件を上げて敷居を高くする採用方針にした（取れなきゃ取れないで構わない）ので、採用人数としては少ないことが予想されるが、あくまで人数の結果次第である。社内教育にするとしてもキャリア助成金を使うので、例えば社内教育の場合は対象者が1名だと認められないとか、ちゃんとした研修場所を確保しなければならないとか多々面倒なこともあり、その辺も判断材料のひとつとなる。社外に出せば他社の新人とのグループ学習が出来るなどのメリットがあるが、社内であればもっとキメ細かい教育が出来ると思うし、既に社内教育でのノウハウも貯まっている。両方ともそれぞれ良いところがあるので、やはり採用人数を見て多面的に判断することになる。

対象企業⑤

今年度受講生数：2名（全3コース・基礎コース）

日時：2009年7月27日（月） 14：00～15：30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAVIS）

1. 受講者の生の感想

（受講者A）

- ・IT技術基盤コース（基礎クラス）では、自分のグループの中に出来る人が一人くらいいてほしかった。他のグループにはそういう人がいたので、演習結果として出来上がったものに差が出たのが残念だった。出来れば事前にスキル把握をするなど、グループ力が均等になるよう配分してほしかった。オブジェクト指向コースのその点は大丈夫だった。

- ・ IT 技術基盤コース全体としては、講師（井本）にも質問をして多くのことを教えてもらい、大変有意義なものだったと思う。今は社内研修でアクセス、VBA、VB6.0 などを勉強しているが、新人研修で基礎が身につけられたので助かっている。アルゴリズムやプログラム構築の考え方も身についたので良かった。
- ・ オブジェクト指向コースに関しては、もう少し時間が必要な内容だと思う。Java も含めて全体的に難しかったと思う。グループワークでの成果物が完成まで至らなかったが、時間が不足していたと思う。
- ・ ビジネス基盤コースでは頻繁にグループ入れ替えを行い、多くの人と交流できたのが何より良かった。他の会社の人、異なった考え方の人と話すことができ、コミュニケーションの難しさ、大切さを感じられた。全般的な内容も良かったが、そういう経験を出来たことが有益だった。（受講者 A・B 共通意見）

（受講者 B）

- ・ IT 技術基盤コース（基礎クラス）に関しては、内容的に満足している。なにより一番がグループ演習を体験できたことである。チームで一つのものをつくる、オリジナルなものをつくるという経験は非常に有益だった。講師（井本）は多々、細かい質問にも答えてくれて、教わることと自分で考えることのバランスが非常に良かったと思う。
- ・ オブジェクト指向コースについても内容的な不満はなかった。ただ、自分で不得意なところがあって、それがグループに影響したところが少なからずあったので反省している。同じグループに人にフォローしてもらったので、そういう面でもグループ演習というのは大変よいと思う。
- ・ 全体として基本を身につけられたので、今の社内研修の内容の理解を深められていることにつながっていると思う。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・ 参加の動機としては、あらたに MISA 会員となり MISA 研修を知ったからである。これまでは東京の研修へ出していたが、旅費なども考えると安いということもあった。参加を検討するにあたっては、オブジェクト指向コースの内容が新人には重いと感じたが、今回は試しに参加させようということになった。
- ・ 全体的な感想としては、IT 技術基盤コースのほうはこれで良かったと思っているが、オブジェクト指向コースのほうは内容が多くて難しかったので、もっとオブジェクト指向の基本的なところを定着させることに重点を置いた内容にしてほしい。演習課題に振り回されて基本を覚えていない結果になった感じがする。最近は採用する新人も、まったく経験がなくても採用するようになってきていると思うので、その辺を見据えてほしい。
- ・ チーム演習についても、新人には 1 から考えさせるのは難しいと思うので、講師から途中の道筋をもう少し示していただきたい。課題のために残って作業することも減ると思

う。また、成果発表で「あと 3 日あれば完成した」という発表があったが、納期に間に合うよう講師が手助けをするか、またはどうしても納期に間に合わないのであれば発表で“あやまる”という指導をしてほしい。やはり納期厳守を身につけさせることは大事なことであるので。

- ・ 事前に、例えば募集案内のカリキュラムなどに、受講前の前提知識というのを入れられないか？当社では入社前教育として eラーニング等を行っているが、事前に学習させるにあたって、どういうことを学習させればよいか参考になる。事前にそこを学習させることによって、新人研修本番でグループ、クラスの足をひっぱることが避けられると思う。
- ・ ブログについては進捗状況を見させていただくの非常に参考になった。各新人に自由に記載させることは個性が見れて良かったと思う。交流会も是非続けてほしい。ただ開くのではなく自己紹介など参加させるような仕組みを入れるのであれば、そのほうが良いと思う。コース毎の受講者評価も大変参考になったが、A～E とかの 5 段階が適切ではないか。

3. フォローアップ研修について

- ・ 既に 2 名とも参加申込みを行った。助成金は活用していないが、新人研修の振り返りをさせたいという目的で受講させていただく。

4. 来年度の計画など

- ・ 来年度も採用をする方向で、採用することが出来れば、MISA 訓練を利用したい。ただ、オブジェクト指向コースは内容を見て検討することになると思う。今の内容は難しすぎる場合がある。

対象企業⑥

今年度受講生数：2 名（全 3 コース・基礎コース）

日 時：2009 年 7 月 28 日（火） 11：00～12：00

出席者：

- ・ 対象企業：派遣担当者 1 名、受講者 2 名
- ・ MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

（受講者 A）

- ・ 大学で情報系の経験が全くなかったので、基礎技術からシステム開発の流れまで学習できたことは非常に有意義だった。ただ、オブジェクト指向コースは内容が詰め込みすぎていると感じた。それでいて設計を中心に勉強すべきなのか、コーディング中心に勉強

すべきなのかがはっきりしなかったので、どこを優先して勉強してよいか自分でも分からず、結局どっちつかずで終わってしまったのが残念であった。

- ・現在は OJT を通して VB6.0 を学習しているが、研修で C 言語などを学習し、アルゴリズムなどベースとなる知識は身につけられたので、大変助かっている。

(受講者 B)

- ・まずビジネス基盤コースでの強制的に他者と交流させる仕組みが大変ありがたかった。自分自身が交流下手なので、人とかかわり方が身についたし、また実際に他社の人と研修を終えてからも交流が続いている。
- ・オブジェクト指向コースで学んだ Java を現在も OJT で学習し続けているが、研修期間中に出てきた疑問点を会社で解決できたこともあった。疑問点については研修中、先生（浅野）に質問はしたが私自身が時間的に中途半端で終わってしまったので、研修ではもっと時間をかけて Java を学習したかったと今、感じている。
- ・IT 基盤養成の基礎 2 クラスの間で、学習レベル（ボリューム）が異なっているように見受けられた。特に自分のクラス（井本講師）に不満があるというわけではないが、もう一方のクラス（三苦講師）の内容は自分のクラスよりハード（内容が多い）であると聞いた。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・参加の動機としては、これは例年のことであるが、人数が少ないため自社で一からカリキュラムを作成するなど体制を整えることを考えれば、MISA 訓練に出したほうがよいという判断からである。こうした集合教育をこのレベルで実施しているのは非常に魅力的だと感じている。
- ・訓練内容の総括的な感想としては、Web アプリケーション開発系の内容が多いと感じており、それよりはもっとアルゴリズムや SQL などについて難しいところまで深くやってほしいという気持ちがある。（各社さんの要望はまちまちなのでしょうか。）
- ・オブジェクト指向コースについては、オブジェクト指向の基本、考え方のほかに、課題演習など、あれもこれも詰め込んで焦点が分散している感じがする。ただ、全体の流れを学べた点については良かったとも思う。限られた時間で全てを満足するのは難しいと思うが、オブジェクト指向コースの詰め込みすぎという部分は検討していただきたい。

3. その他新人研修に関する懇談

- ・当社では、入社前に基本情報技術者試験の本を事前勉強用として渡している。実際に学生が勉強しているかまで管理していないが、あまり難しい内容を与えるより、知らない用語をできるだけ事前になくすことに焦点を絞っている。その目的では基本情報の本あたりが適切かと考えているが、MISA のほうで何か行うのであれば検討してみたい。

4. フォローアップ研修について

- ・今年度のフォローアップ研修については既に申し込みを済ませた。特に内容などには不満はない。

5. 来年度の計画など

- ・来年度も採用する方向で動いているが、まだ見通しは立っていない。採用することになれば MISA 訓練を利用したい。その場合はオブジェクト指向コースまで利用するつもりである。

対象企業⑦

今年度受講生数：7名（全3コース・基礎コース）

日時：2009年7月29日（水） 13：00～14：30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者2名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAVIS）

1. 受講者の生の感想

（受講者A）

- ・基本的なところは一通りやったのであろうが、技術的なところをもっと深く勉強したかったと今は思う。また基礎クラス（井本講師）ではコーディング演習が少なかったとも思う。テキストのサンプルをいくつかやった程度だった。もっと演習問題を出してほしかった。
- ・オブジェクト指向コースは内容が多すぎると思う。設計から製造までやることになっているが、スケジュール的に無理があるのでは？と感じる。
- ・ビジネス基盤コースは、中でも尾田先生のプレゼンが非常に有益だった。

（受講者B）

- ・学生時代、プログラミングの経験がまったくなかったこともあり、テキストや資料に記載のない口頭の説明を聞き逃すと授業についていけない状況が最初のほうではあった。隣の人に聞いて解決したり、中盤以降は慣れてそういうこともなくなったが、市販本のテキストは初心者の私には難しかったと感じたし、資料にも記載されていない口頭説明が多かったとも思う。（基礎・三苦クラス）
- ・オブジェクト指向コースの中間レビューで指摘された内容の中で、最初から指示すべきと思うことがあった。（ユースケース図などは発表レジュメに入れなくてよい、という点）前の IT 基盤コースでそのようにやっていたので、当然同じように進めるものだと思う。最初から指示すべきことを整理して指導してほしい。

- ・講師はそれぞれに良いところがある。三苦先生は時間を効率的に使っていたと思うし、井本先生はひとりひとり丁寧に聞いて回ってくれた。
- ・(ビジネス基盤コースのプレゼンの授業が、技術系コースの成果発表で活かされたか?の質問に対して) プレゼン授業で得たことが成果発表では出せなかった。発表内容が完成していなかったのが自信が持てなかったこと、完成させることに手がいっぱいだったことが理由だと思う。

2. 今年度実施訓練の評価に関して (研修担当者)

- ・全般的に昨年よりカリキュラムを含めて改善されており良かったと思っている。当社の期待するところであるチームによる演習が充実しており、例えばチーム内で討議をすることだとか、他者とのコミュニケーション、仕事の段取り、自発的な行動や立ち回り方など、チーム作業において重要かつ、なかなか他の研修では出来ないことがこの研修で学習できた。期待していた目的は達せられたと思う。他の民間研修などより MISA 研修を選んだ動機・目的は、もちろん価格面もあるが、こういったところにある。
- ・IT 基盤養成、オブジェクト指向の両コースともカリキュラム構成はこれで良いと思う。C 言語、データベース、Java などの要素技術の構成もこれでよい。当社としては、どちらかという技術的なスキル向上よりも、チーム演習を通したヒューマンスキルのものや、フローチャート、システムの組み方など、開発全体の流れや根本的な考え方を理解してくれていけばよいという考え方である。技術的なスキルに関しては会社特有のものがあるので、MISA 新人研修後、社内教育で1年かけて教えていくつもりでいる。
- ・技術的なスキルが研修で身についたかといえば、今7人のうち6人が仙台にいて教育中であるが、下が2人、中が2人、上が2人といった印象である。ただ、新人たち個人個人の持っているもの(前提スキル)や学習意欲も関係してくるので、先にも述べたとおり技術的スキルの部分については、これから当社が教育していくものだと考えている。
- ・成果発表会を見学して気がついたことだが、課題演習で取り組んだシステムを完成したとこまで発表で見せるというのであれば、その部分はシステムのコアな部分であってほしいし、そう新人たちが気づくよう仕向ける、あるいは指導したらよいと思う。システムの出来上がったところがログイン画面だけというのがあったが、これがコアな部分を見せてくれたのなら、頑張ったのだなと思うし、出来上がっていないのなら設計した成果物を発表で見せてくれてもよかった。
- ・受講者評価を送っていただいて大変ありがたい。ただ、ダメなところは正直に、厳しい評価をしていただいてよい。今年の新人の中でクセのある人がいることも認識している。例えば、朝早く来て頑張っている人、開始時間の3分前にしか来ない人など、細かい報告もあると尚よい。

3. その他新人研修に関する懇談

- ・当社では、入社前に特に何か指導をする、教育をするというようなことは行っていない。学生から問い合わせがあることもあるが、その場合は“ビジネス書でも何でもよいから、とにかく本を読んでください”と答えている。入社するまでは学生としてすべきこと（遊びも含めて）をしてください、という考え方で、勉強は入社後にきっちりさせる方針である。

4. フォローアップ研修について

- ・フォローアップ研修については今のところ利用する予定はない。ビジネススキルに関しては当社でも独自に民間の講師を招いたりして行っているので、今のところフォローアップ研修を必要とする状況はない。

5. 来年度の計画など

- ・採用はする方向なので、もちろん来年も利用したいと考えている。

対象企業⑧

今年度受講生数：1名（ビジネス基盤養成、IT技術基盤・基礎コース）

日時：2009年7月30日（木） 13：30～14：30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者1名
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

- ・今回、IT技術基盤コースのみ受講であったが、今の業務に携わってみて、オブジェクト指向まで学びたかったと感じている。C#やVBをはじめ、今の時代は全部と言ってよいくらいオブジェクト指向が入っている。
- ・先生（三苦）は丁寧によく説明してくださったので大変感謝している。特に指摘したいことはなく、逆にたくさんの受講者にあれだけ多くのことを教えているので感心した。
- ・IT技術コースで指摘するとすれば、チームやクラスの編成バランスである。できる人がいるチームはやはり発表する内容もよく、そういう人がいるか、いないかで成果の出来が異なってくる。事前にスキルチェックなどおこなってバランスをとってほしい。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・MISA新人研修は既に当社の新人教育の中で確立されている。会社の規模から新入社員の人数も少なく、また自社内での新人教育体制も整っていないので、引き続き利用したい。

- ・(オブジェクト指向コースを利用されない点に関して) 内容という面ではなく、時期的な要因であった。5月末まで新人教育にあて、6月1日から仕事につかせる方針でこれまで行ってきた。ただ、今回のヒアリングで、当社新入社員の話(オブジェクト指向系の技術が業務で必要となっている点)を聞いて、また、オブジェクト指向コースの終了が6月初旬程度でもあるので、来年は参加の検討をしてみたい。
- ・MISA 訓練の内容は評価している。特に要望なども現状では持っていない。カリキュラムで扱っている内容、要素技術も期待するところを網羅していると思う。特にチーム演習によって一人学習では出来ない経験ができる点、協調性が身につけられる点が大変ありがたい。やはり他社の新人と話をしながら得られるものはかなり大きいものだと思う。
- ・今回の MISA 研修を終えての感想としては、期待する IT の基礎技術は一通り学んで帰ってきてくれたという印象である。IT 技術というものは会社それぞれで独自のもの、やっているものがあるので、MISA 訓練では IT の基礎を身につけられればよいと思っている。
- ・ビジネス基盤コースの受講に関しても、入社したときよりひとまわり成長して帰ってきたのが明らかに分かったので、非常に満足している。内容面でも問題ないし、この方向でよいと思う。尾田講師のプレゼン発表を見学させていただいたが、予想以上のことをやっていると感じたし、自社の新人の発表を見ても、十分な内容だったことが分かった。

3. フォローアップ研修について

- ・今年も利用する予定はないが、内容的な理由ではない。6月以降は業務につかせているので、スケジュールの面でまず参加できない。

4. 来年度の計画など

- ・採用はする方向なので、採用できた場合はもちろん来年も利用したいと考えている。

対象企業⑨

今年度受講生数：4名(ビジネス基盤：4名、IT技術基盤(基礎)・オブジェクト指向：各2名)

日時：2009年8月3日(月) 9:00~10:30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名(代表取締役)、受講者2名
- ・MISA：金野(NAVIS)

1. 受講者の生の感想

(受講者A)

- ・ビジネス基盤コースは全般、大変ためになったと思う。特に志伯先生のマナー、尾田先生のプレゼンは印象が強く残っている。

- ・技術系のコースも全般的に有益であった。特にグループ演習が一際良かったと思う。勉強もひとりで考えるのではなく、分からないことを教えあったりできるのは大変よい。非常に学びやすかった環境であると思う。
- ・IT 技術基盤コースは、事前に C 言語や HTML の知識が少なからずあったので、ついていけたと思う。オブジェクト指向コースになると、Java をはじめ、全くはじめてのことばかりなので、勉強も消化しきれていない。事前に少しでも知識があるかないかで大きく異なってくる内容、ボリュームであると感じた。
- ・IT 技術基盤コースでは、プログラミング課題をやらされた後、数人の解答をもとにプロジェクタに投影して説明していただくなど答え合わせを十分に行えたが、オブジェクト指向コースでは時間がないためか、プログラミング課題に対する答え合わせをする機会が少なかったと感じる。その分は、後で見直せるよう手元に何か残る配慮をしてほしい。

(受講者B)

- ・同じくビジネス基盤コースのマナーとプレゼンが特に良かったと感じているが、プレゼン発表の準備時間をもう少し多く欲しかったと感じる。
- ・技術系のコースは全般、自分にとってはペースが速く感じた。全体の学習する量が多かったためだと思うが、入社前に事前学習した分野（主に C 言語）はついていけた。だが、それ以降は全く未経験だったせいなのか、ついていけたと言えない状況だった。
- ・オブジェクト指向コース（浅野講師）は、“分からないことは聞いてください”というスタイルだったが、自分としては“何が分からないのかが分からない”状況もあったため、つらい面もあった。そういう指導スタイルはあってよいものだとは思っているのだが。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・受講者が訓練についていけた、いけなかったというのは、受講者もまず予習と復習を行って、それからのことだと思っている。ただ、予習や復習で何をしてよいのか分からない人もいるのでは？その辺をまず見定めた上で対処していただきたい。
- ・MISA 訓練の参加理由については、まずビジネス基盤コースは社内で出来ないため MISA 訓練に出しているということ。技術系のコースは同等の内容を社内で出来るのだが、まず昨年までを言えば、業務で社員を新人教育に当てられなかった状況があった。今年に関しては、社内教育ができる状況だったので、実のところ MISA 訓練に出している以外に、社内で教育した新人もいた。助成金を活用する面もあり、MISA 訓練に出す新人と社内教育で行う新人と、半々で分けたという状況である。
- ・訓練を受けさせての感想は、社内で教育させた場合との比較になってしまうが、正直、社内で受けさせたほうがよいという印象を持っている。MISA 訓練は一人の講師が多人数を受け持っているのだから、やはり細かいところまで見えていないのだと思う。社内で教育したほうも最後に MISA 訓練と同じような成果発表をさせたが、同じ文系出身ながら

MISA 訓練のものより出来はよかった。

- ・ 事後に訓練の受講者評価をいただいたが、出来れば“ここまで出来ます”のような指針になるものをいただきたい。A,B,C とかではなく、“何ができるのか”について見極められるものがほしい。(難しいことは承知しているが)

3. その他 MISA 訓練に関する懇談

- ・ 当社では、入社前に C 言語やコンピューターの基礎などの本を渡して勉強させている。事前スキル・知識をある程度の一定以上に上げないと、集合教育も効率的に進まないと思う。その辺、MISA としても、前提スキルが一定以上になるよう何か履修することを明確に打ち出す必要があると感じている。

4. フォローアップ研修について

- ・ 4人のうち技術系の2人が助成金対象なので、2人は出す予定である。もしかすると3人出すかもしれないが、今後の検討である。内容的な要望・期待はない。

5. 来年度の計画など

- ・ MISA 訓練に出すかどうかは、そのときの社内教育人材を割当てできるかどうか、それと新人の人数、助成金の活用などを総合判断して決める。来年の採用は厳選指向で、今現在では2人くらいの予定なので MISA 訓練に出すつもりでいる。

対象企業⑩

今年度受講生数：2名（ビジネス基盤養成2名、IT技術基盤・基礎コース2名）

日時：2009年8月4日（火） 13：30～14：30

出席者：

- ・ 対象企業：派遣担当者2名（うち部長1名）、受講者1名
- ・ MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

- ・ 基礎コースの2クラス間では、先生の違いにより内容に差があるようなことも聞こえてきたが、自分としては参加クラス（井本講師）に満足している。講義ペースもよく、演習も適度に行えた。もう一方のクラスは丁寧すぎて時間をかけすぎという声があった。
- ・ 研修で学んだ中で、C言語やSQLは今の業務でも即、活用できているので非常に助かっている。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・今後も MISA 訓練を利用したいのが基本的な考えであるが、以前にあった系列関係の新人研修が復活する可能性が出てきた。すぐに復活するとは思っていないが、復活となればそちらに参加することになる。
- ・MISA 訓練に関しては大変よいと思っている。特に、人に対して発表する機会が多いということ、1つのものをグループで作っていくということの2点がよい。昨年のおきに気になった“遅くまで残って作業する”ということも今年はなくなった。総合的に満足している。
- ・ひとつだけ気になったのは、課題演習で作るシステムの目標とする規模が最初から例年より小さくなっていったことである。昨年までは最初の目標が大きく、最後はやりきれず小さくなったという印象だったが、今年は最初から小さかったと思われる。やはり新人教育なので、最初から小さいのは好ましくないと感じた。ただ、時間が関係することなので、難しい面もあるとは思っている。
- ・オブジェクト指向コースに参加しなかったのは、当社はパッケージ主体で VB.net が必要となるため、それを OJT で教育したいからである。IT 技術基盤コースで学ぶ C 言語は実際にあまり使わないが、そこではアルゴリズムの基本的なところを学べればよいと思っている。研修では完全に技術を習得してくるとか、戦力になることまでは期待していない。今は、IT 技術基盤コースで基礎のところをやれば十分と考えている。
- ・研修から帰ってきて、仲間意識や存在感、横のつながりなど人間的にすごく成長してきたと感じた。途中の MISA 訓練がなかった日（4/30、5/1）は当社で課題を与えプレゼンさせたが、入社後1ヶ月程度のその時期でも明らかな成長が見られた。

3. フォローアップ研修について

- ・ここで初めて案内を見たのだが、実はフォローアップ的な内容の教育を社内でやらなければならない、何をやるかこれから考えなければならないという状況だった。できる体制ではない悩みもある。MISA のフォローアップ研修については今後、検討してみたい。

4. 来年度の計画など

- ・採用した場合は MISA 訓練を利用したいと思っているが、未定である。あくまでも採用や、研修をどうするかは系列本体の意向に従うしかない。

対象企業⑩

今年度受講生数：3名（ビジネス基盤養成3名、IT技術基盤・基礎コース3名）

日時：2009年8月5日（水） 13：00～14：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名（部長）、受講者1名
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 受講者の生の感想

- ・技術系の研修では、ついていけない箇所を講師（三苦）によくフォローしていただいたので大変助かった。講師からは熱意が非常によく伝わってきて好感がもてる。それでも受講者数が多いので、分からない人を全員フォローするのは大変だったと思う。期間中の土曜日に1回、特別講習を開いて理解不足の人をフォローしてくださったのは感謝している。
- ・成果発表会（IT技術基盤・基礎コース）で同じ基礎コースの他方のクラスの発表を見たが、出来上がった作品のレベル差があるのに疑問を持った。他方のクラスは自分のクラスよりも容易なレベルのシステムでおさめていたと思う。
- ・現在は業務を手伝いながら社内教育を受けている最中で、研修のときよりも複雑な構文が出てくることもあるが、研修では基本的な書き方、考え方、調べることを学べたので多いに役立っている。
- ・自分のグループではメンバーのレベル差が極端にあった。課題演習ではすごく出来る人がシステムの大半を作ってしまう、出来ない人との作業量の差がかなりあった。中間レベルの人がいれば違った結果になったかもしれない。
- ・技術系のコースでは、課題演習を考えるとゲストセミナーに1時間とられるのは痛い。

2. 今年度実施訓練の感想と懇談（研修担当者）

- ・内容的には満足しており、MISA研修へ出した甲斐があった。成果発表やプレゼン発表なども、人前で話したことがない人もいたので良い経験が出来たと思っている。
- ・成果発表会を聞きに行くほうとしては、ずーっと聞いていなきゃいけないと思うと正直なところ負担である。そういう面もあり、これまでの成果作品の説明を主体とした発表より学習過程を中心にした内容の発表はよいと思う。
- ・今回は自社としての反省がある。新人3人とも全員であるが、学校歴から基礎的なところは既に出来るだろうと思っていたが、それが誤りだったようである。新人研修に出す前にしっかりと勉強をさせたほうが良かったと反省している。ただ、今回の新人の場合は卒業研究が2月までであるということだったので、やろうと思っても出来なかったかもしれない。

- ・現在は社員を1人つけて社内教育中であるが、今年の新人は“自分から勉強しないのが特徴”と感じている。3人それぞれレベルにばらつきが出てきたが、意欲がそのまま反映されていると思う。

3. フォローアップ研修について

- ・9月の時点で新人がどのような状況か直前まで分からないため、現時点では参加できるとは言えない。6月～8月上旬までなら自社にいたので、その頃なら参加を考えてみてもらうが、内容からして時期的に合わないと思うし、今は難しいとしか言えない。

4. 来年度の計画など

- ・景気状況により来年の採用は白紙になった。あと1～2ヶ月様子を見てから採用を検討することとしている。仮に採用した場合は、同じカリキュラムであれば、今年度と同じくビジネス基盤コースからIT技術基盤コースまで利用したい。

対象企業⑫

今年度受講生数：7名（ビジネス基盤：7名、IT技術基盤(基礎)・オブジェクト指向：各4名)

日時：2009年8月6日（木） 15：30～16：30

出席者：

- ・対象企業：社内教育担当者1名
- ・MISA：金野（NAViS）

1. 今年度実施訓練の感想（社内教育担当者）

- ・MISAの研修を終えてから実施している社内教育での考察からとなるが、これまで秋田市内の新人研修に出していたときと比べると、文系出身や専門学校出身などレベルにばらつきがある割には研修後のスキルが平均化されていた点が評価できる。ただ、スキルレベルという点では例年より下がったという印象を受ける。社内教育の進めるスピードも例年より遅かった。技術スキルをもっと向上できるよう望む。
- ・今年の新人は、課題が進まない割には質問が全然出てこない。考えているようではあるし、新人同士では話し合っているようだが、とにかく手応えがつかみにくい。技術スキルもそうだが、ヒューマンスキルの面でも研修での効果はあまり感じられなかった。

2. フォローアップ研修について

- ・全員が業務で遠方へ派遣されているので、フォローアップ研修への参加は困難である。

3. 来年度の計画など

- ・採用や来年の新人研修についてはまだ決まっていないが、可能性はあると思う。

<参考資料1：2009年度認定職業訓練・新人研修カリキュラム>

社団法人宮城県情報サービス産業協会

ビジネス基盤養成コース（8日間） 各日9：30～17：30

コースの目的・狙い：

社会人としての基本動作を習得すると共に、MISA 訓練ならではの特色としてビジネスの実践の場で要求されるビジネススキルやコミュニケーションの実務基礎スキルも育成します。

育成・到達目標：

- ・ ビジスマナーの基本動作ができる（挨拶、電話対応、敬語、身だしなみ、名刺交換等）
- ・ 組織で働く上での基本動作ができる（ビジネス文書作成、報連相、効率性／正確性、PDCA等）
- ・ 協調性・柔軟性を持った組織内コミュニケーションが実践できる。
（チームワーク形成、ミーティング、職場の人間関係形成等）
- ・ 主体性・積極性を持った応用コミュニケーションが実践できる。
- ・ （論理思考、企画／プレゼンテーション、積極的傾聴等）
- ・ ビジネスコミュニケーション力を駆使し、実際の現場で即戦力となるビジネス活動ができる。

テキスト：すべて講師独自資料のみ

科目・日程	概要	講師・会場
開校式（4/2(木)）	9：15～ MISA 挨拶及びオリエンテーション（リンケージルーム1(3F)）	
ビジスマナー（3日間） 4/2（木）～6（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としてのマナー、ビジネスの場で必要な各種コミュニケーションについて学習します。 ・ 要領の得た話し方、説明・報告の仕方、ビジネストーク・敬語、態度、ミーティングでの発表などについて実際の演習を通じて体得します。 	フリーアナウンサー （仙台市） 志伯暁子 リンケージルーム1（3F） （※本研修のみ2クラス合同で行います。）
ビジネススキルⅠ（2日間） Aクラス 4/7（火）～8（水） Bクラス 4/9（木）～10（金）	ビジネス文書、チームワーク <ul style="list-style-type: none"> ・ 社内外に必要な基本文書の作成、報告書の作成、e-mailでのマナーなど文書作成を幅広く学習。 ・ 仕事意識、対人折衝、チームワークなどIT企業必須のヒューマンスキルに関して、グループでの演習を交えながら実践的に学習。 	（有）マネジメントプラン （仙台市） 代表取締役 杉山厚志 ワークショップルーム2-A （2F）
IT ビジネスコミュニケーション（2日間） Aクラス 4/9（木）～10（金） ※発表会10日14：00～ Bクラス 4/7（火）～8（水） ※発表会8日14：00～	IT ビジネスコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ IT ビジネスの商談の進み方、その中で必要となる顧客対応力（ヒアリング、e-mail、コンプライアンス、個人情報保護など）に関する総合的なコミュニケーション力を養う。 企画提案書作成、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションのためのシナリオづくり、企画書作成、コミュニケーション力を養う。 ※2日目(Aクラスは10日(金)、Bクラスは8日(水))の14:00より成果発表会を行います。受講企業外の参加も可能とし、訓練PRの機会を作ります。	マネジメントテクノロジー、LLC （東京都） 尾田友志 ワークショップルーム2-B （2F）

ビジネススキルⅡ (1日間) Aクラス 4/13(月) Bクラス 4/13(月)	論理思考・ディベート ・ロジカルな思考力の鍛錬や会議運営などビジネススキルの応用力を養います。	尾田友志 (Aクラス) ワークショップルーム 2-B (2F) 杉山厚志 (Bクラス) ワークショップルーム 2-A (2F)
[ゲストセミナーⅠ] 4/3日(金) 16:30~17:30	テーマ: IT業界で働く意味と自己成長のポイント (※1時間程度の講演+質疑)	
[訓練生交流会Ⅰ] 4/10日(金) 17:40~19:30	会場: NAViS リンケージルーム (会議室)	

IT技術基盤養成コースⅠ (プログラム開発基礎コース) (18日間)
各日9:30~17:30 (16:30~17:30は課題演習)

コースの目的・狙い:

ITサービス産業での基盤技術であるアプリケーション、データベースの実践技術を養うと共に、IT開発の流れを理解し開発現場における必須の留意点などに関して習得します。

本コースは**理解のしやすさと習得内容の定着を重視した基礎コース**となります。

育成・到達目標:

- ・プログラムの基本原理を理解し、言語に左右されないプログラム開発技術基盤を有する。
- ・業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
- ・オープンソースを基盤としたWebアプリケーション開発技術を理解し、実装できる。
- ・例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
- ・模擬ITシステム開発プロジェクトの実践を通じて、IT開発の全体像や流れを理解できる。
- ・チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師・会場・テキスト:

Aクラス

講師: (有)パーソナリティレビュー (横浜市) 三苦 健太

会場: ワorkshopルーム1 (2F)

テキスト: 新版 明解C言語 実践編 (ソフトバンククリエイティブ)

Oracle 10g データベース入門 (アスキー)

独習 PHP (翔泳社)

ほか講師独自資料

Bクラス

講師: (株) デジタルイノベーション (さいたま市) 代表取締役 井本 貴志

会場: ワorkshopルーム2-B (2F)

テキスト: 独習C 第4版 (翔泳社)

10日でおぼえる Oracle データベース 10g 入門教室 (翔泳社)

10日でおぼえる PHP5 入門教室 (翔泳社)

ほか講師独自資料

科目・日程	概要
プログラム開発プロセス 4/14 (火) (1日間)	・アルゴリズムの組み立てからプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発プロセスをまず理解する。
アルゴリズムとC言語 15 (水) ~23 (木) (7日間)	・プログラムのロジックを理解し、開発の本質となる基本の定着を目的とした研修。 ・最も汎用性が高く実践的な言語であるC言語を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラム構造、データ型や変数、演算子、条件分、繰り返しなどの基本を演習。
予備日 4/24 (金) (1日間)	・前半部分に関する定着度の確認とフォローアップを行う。 ※中間レビュー1 課題プログラム演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック
RDB 入門 4/27 (月) (1日間)	・データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。
DB 操作と SQL 言語 4/28 (火) (1日間)	・OracleDB (Oracle10g Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。
(GW期間中の平日)	事前の申出により平日に限り会場を開放 (9:00~17:30)。 (事前申出のない場合は開放しません)
DB 操作と SQL 言語 5/7 (木) ~8(金) (2日間)	・OracleDB (Oracle10g Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習
Web 開発演習 5/11 (月) ~13 (水) (3日間)	・業務アプリケーション開発の初歩として、汎用性の高い PHP・Perl による Web アプリケーション開発を学習。 ※中間レビュー2 (5/12 (火) を予定) 課題プログラム演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック
発表準備 5/14 (木)	・理解度のおぼつかない受講生はフォローアップとして納得いくまで弱点分野の課題を解く演習を実施。 ・課題作成プログラムのプレゼンテーション資料等を作成。
課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 5/15 (金)	・講師提示の研修内容に関連したプログラム開発に関する課題により、グループにて仕様書作成、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワーク力も吸収する。 ※内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする ※成果物の完成は主目的とはせず、プロセスを重視 ※概ね期間後半 (「アルゴリズムとC言語」終了後) を目処に課題演習を開始。
【ゲストセミナーⅡ】 4/23 日(木) 14:30~15:30	テーマ: ソフトウェア開発の品質管理 (※1時間程度の講演+質疑)
【訓練生交流会Ⅱ】 4/24 日(金) 17:40~19:30	会場: NAViS リンケージルーム (会議室)

※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。

※ プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は Oracle10g Windows を利用。

IT 技術基盤養成コースⅡ（プログラム開発応用コース）（18日間）

各日 9:30～17:30（16:30～17:30は課題演習）

コースの目的・狙い：

ITサービス産業での基盤技術であるアプリケーション、データベースの実践技術を養うと共に、IT開発の流れを理解し開発現場における必須の留意点などに関して習得します。

本コースはより高度な現場寄りのスキル育成を重視した応用コースとなります。基礎コース同等の目的に加え、オープンシステム全体を複合的に捉えられる応用技術や自立的な技術探究力の習得も目標とします。

育成・到達目標：

- ・ プログラムの基本原則を理解し、言語に左右されないプログラム開発技術基盤を有する。
- ・ 業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
- ・ オープンソースを基盤とした Web アプリケーション開発技術を理解し、Web システムとしての基本的な実装・利活用ができる。
- ・ 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
- ・ プログラム開発実務における技術探究調査、開発、テストなど各段階で自立的な行動が取れる。
- ・ 模擬 IT システム開発プロジェクトの実践を通じて、IT 開発の全体像や流れを理解できる。
- ・ チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師：IT スペシャリスト（仙台市）浅野 秀一

会場：ワークショップルーム 2-A（2F）

テキスト：図解でわかる ソフトウェア開発のすべて（日本実業出版社）

独習 C 第 4 版（翔泳社）

SQL トレーニングブック（ソーテック社）

速効！図解プログラミング PHP+MySQL（毎日コミュニケーションズ）

ほか講師独自資料

科目・日程	概要
プログラム開発プロセス 4/14（火）（1日間）	<ul style="list-style-type: none">・ アルゴリズムの組み立てからプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発手順を整理する。・ 期間中は課題作成演習を研修に併せて実施し、習得技術の定着、応用力の強化や柔軟な発想力の育成を図る。
アルゴリズムと C 言語 4/15（水）～22（水） （6日間）	<ul style="list-style-type: none">・ プログラムのロジックを理解し、開発の本質となる基本の定着を目的とした研修。・ C 言語を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラムの構造、データ型や変数、演算子、ステートメント、ポインタ、構造体といった基本を、演習を主体に学習。・ 応用として並び替え、順位、検索、線型リストを学習。
Web 開発演習 4/23（木）～27（月） （3日間）	<ul style="list-style-type: none">・ 業務アプリケーション開発の初歩として、オープンソース利用の典型である PHP による Web アプリケーション開発を学習。 <p>※中間レビュー 1</p> <p>自由課題による課題作成プログラミングのレビューを実施。アルゴリズムやフローチャート等の出来具合の確認、開発計画の妥当性、品質などに関してレビューを行い、コーディング演習へつなげる。</p>

RDB と SQL 言語 4/28 (火) (1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。 OracleDB (Oracle10g Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習 (復習) すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。
(GW 期間中の平日)	<p>事前の申出により平日に限り会場を開放 (9:00~17:30)。 (事前申出のない場合は開放しません)</p>
データベース設計・開発 5/7 (木) ~8 (金) (2 日間)	<ul style="list-style-type: none"> データベーススペシャリストに必要な ER 分析など DB 設計の基本や構築・管理に必要な技術を学習。 Oracle を題材としたデータベースの実装、各種操作に関しても学習。
Web/DB 連携プログラム 5/11 (月) (1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> 業務アプリケーション開発の初歩として、あるいは学習した技術の総仕上げとして Web/データベースアクセス型のアプリケーション開発を学習。
課題作成プログラム・総仕上げ 5/12 (火) ~14 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 本研修の目玉である課題作成プログラムに関して、テスト等指導し成果物を完成させる。 開発プロセスを振り返ったレビュー、プレゼンテーション資料の作成等も行い、成果発表会に向けた準備を行う。 <p>※中間レビュー2 課題プログラム演習 (自由課題) に関する出来具合等のチェック</p>
課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 5/15 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 研修の一環としてグループにて開発計画の立案、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワークも吸収する。本コースでは、上流工程の内容は軽めとし、IT システムの開発 (モノづくり) の基本的な手順の理解と経験に重点を置く。 課題作成プログラムは研修に並行して進める。
【ゲストセミナーⅡ】 4/23 日 (木) 14:30~15:30	<p>テーマ：ソフトウェア開発の品質管理 (※1 時間程度の講演+質疑)</p>
【訓練生交流会Ⅱ】 4/24 日 (金) 17:40~19:30	<p>会場：NAVIS リンケージルーム (会議室)</p>

- ※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。
- ※ 本コースは応用コースですが、IT システム開発やプログラミングの経験の有無は受講前提条件とはなりません。業務系のシステム開発はあくまでゼロベースである前提に立って研修を進めます。
- ※ プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は Oracle10g Windows を利用。

オブジェクト指向開発コース (15 日間)

各日 9:30~17:30 (16:30~17:30 は課題演習)

コースの目的・狙い：

オブジェクト指向による Web システム開発の PBL (Project Based Learning) の実体験を通じて要件定義から設計・開発、テスト、納品までの IT プロジェクトマネジメントを実践し、SE に必要な実務スキルや知識の即戦力を養います。

育成・到達目標：

- ・ 業務系課題の解決を目指した情報化プロジェクトの実践を通じて、IT システム開発上流工程からの全体像や流れを理解し、プロジェクト要員としての行動や基本的なマネジメントができる。

- ・ プロジェクトマネジメントに必須となるプロジェクト計画書の作成、人員やリソースを踏まえた役割分担、仕様書、プレゼンテーション資料、議事録などの企画立案及びドキュメンテーションができる。
- ・ 研修でオブジェクト指向開発に必要な分析設計、UMLによる表記などの標準手法を理解し、研修後に各社の独自手法と相対的に比較しながら現場で必要な行動を実践できる。
- ・ オブジェクト指向開発に必要な基礎技術（Java、MVCモデル、JSP、DB等）を有する。
- ・ チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、チームワークやコミュニケーションを現場で実践できる。

講師・会場・テキスト：

Aクラス

講師：(株) デジタルイノベーション (さいたま市) 代表取締役 井本 貴志
 会場：ワークショップルーム2-B (2F)
 テキスト：独習オブジェクト指向開発 (翔泳社)
 独習 Java 第4版 (翔泳社)
 10日でおぼえる JSP/サーブレット入門教室 第3版 (翔泳社)
 ほか講師独自資料

Bクラス

講師：ITスペシャリスト (仙台市) 浅野 秀一
 会場：ワークショップルーム2-A (2F)
 テキスト：Java6 プログラミング講座 (アスキー)
 改訂新版 基礎UML (インプレス)
 基礎からのサーブレット/JSP 改訂版 (ソフトバンククリエイティブ)
 ほか講師独自資料

科目・日程	概要
オブジェクト指向分析・設計 5/18 (月) ~20 (水) (3日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム開発の手順を理解する。 ・ オブジェクト指向の基本知識を習得する。 ・ システム分析・設計の開発モデルを理解する。 ・ UMLによる要求のモデリング、ユースケース図システム分析や設計の基本的なパターンを学習する。 ・ 課題演習の要件定義・設計図の作成を併せて行う。
ソフトウェア設計 21 (木) ~26 (火) (4日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム化要件定義を受けて、ソフトウェアへの要求事項について、「機能分割」「インターフェース設計」「コンポーネント設計」「入出力画面および帳票」「コード」「データベース設計」などをソフトウェア設計書にまとめる。 ・ 実装言語として Java を使用し、Java の特徴や基本構文 (条件分岐、繰り返し、演算子)、クラスやメソッド、オブジェクト等を解説。 ・ クラスの継承や多様性、カプセル化などについても学習。
課題作成プログラム・中間レビュー 5/27 (水) (2クラス合同)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務系のケース課題による要件定義と設計、仕様書作成、開発計画等に関する中間レビューを実施。設計や開発計画の妥当性、品質などに関して2クラス合同で発表会とレビューを行い、開発演習へつなげる。 ・ チームワークでの議事録や役割分担等についてもレビューを行う。
コンポーネント設計 (Controller 設計) 28 (木) ~29 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MVCモデル Controller 設計に関して学習。 ・ 単純な要素技術ではなく通信プロトコル、UML、HTML や HTTP といった背景/関連技術の要点を交え、ある程度独り立ちできることを狙いとする。
コンポーネント設計 (Model 設計) 6/1 (月) (1日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MVCモデル Model 設計として、サーバサイド技術である JDBC によるデータベースアクセスに関して学習し、課題演習を支える技術として吸収する。

コンポーネント設計 (View 設計) 6/2 (火) ~3 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MVC モデル View 設計として JSP を使用し、View 設計を行う。
課題作成プログラム (期間を通じて) 総仕上げ 6/4 (木) 発表会 6/5 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務系の課題を元に、ソフトウェア工学に基づく模擬プロジェクトを推進。グループにて情報システムの企画から設計、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。 ・ 所属会社や保有スキルを問わず全てバラバラの混合チームに分け、プロジェクトチームで開発していく意義やコミュニケーション、ドキュメントの整備、役割分担と計画、品質など業務系システム開発に不可欠かつ重要な内容を模擬体験できるものとする。 ・ 本演習は「訓練として失敗の許される」プロジェクト模擬体験として位置づけ、訓練終了後は円滑に OJT や実務に入ることができるよう配慮する。
[ゲストセミナーⅢ] (5/22日(金)を予定) 16:30~17:30	<p>テーマ：システムエンジニアの仕事 (※1時間程度の講演+質疑)</p>

- ※ 本コースはソフトウェア工学に基づく業務系の IT プロジェクト模擬体験を主目的とする PBL (Project Based learning) です。
- ※ 研修の目的に照らし合わせながら受講者の習熟度や進捗状況によって適宜習得技術内容の追加や割愛を行う場合もあります。
- ※ DB は A クラスが MySQL、B クラスが Oracle を使用する予定です (カリキュラムは双方共通)。

※ 「IT 技術基盤」「オブジェクト指向開発」の 2 コースは、受講者の皆様の習熟度等を踏まえて運営します。具体的には研修の進捗状況等を勘案した実施内容の割愛や追加、テーマ毎の実施ボリュームの調整、関連内容の同時学習などを必要に応じて行います。従って上記カリキュラムは一応の目安とお考えください。

<参考資料2：2009年度 認定職業訓練フォローアップ研修内容>

研修目的：

本研修は（社）宮城県情報サービス産業協会・平成21年度認定職業訓練新人研修受講者を対象に、新人研修後の実務あるいはOJTを踏まえてフォローアップを行い、2年後、3年後のより前向きなビジネス行動につなげていくことが目的です。

また、認定職業訓練から半年程の期間が過ぎた中で、同じ机を並べ学習に励んだ異なる企業の受講者間での交流を深め、今後の糧にしてもらうことも目的としております。

受講対象者：平成21年度MISA認定職業訓練新人研修受講者

（受講コースを問わず。技術系コースのみの受講者も対象となります。）

計画カリキュラム（全て演習中心）：

（時間：9:30～17:00（昼休み12:00～13:00）（2日目終了後会場にて受講者交流会を開催））

研修名	内容
①コミュニケーション能力（志伯講師） （6.5時間） 9月9日（水）	ビジネスマナーの振り返り ビジネスマナーの復習、敬語、電話対応などのロールプレイング復習 ビジネスの現場でのコミュニケーション（話し方の視点） 双方向コミュニケーション、スピーチ、簡潔で要領を得た話し方、自己のコミュニケーションスタイル分析 など
②問題解決能力 （杉山講師） （6.5時間） 9月10日（木）	問題解決と行動計画 問題解決のステップ、問題の明確化、 主体的キャリア形成と自己能力開発ポイント、 現状分析と原因分析の手法 行動目標の設定、自己管理の手法 など

※研修の進捗や受講予定者の状況等により内容や時間配分等を予告なく変更する場合があります。

※1クラス20人以内での開催を計画しております。

<予定講師>（※4月実施済みの「ビジネス基盤養成コース」の講師が担当）

①コミュニケーション能力	志伯 暁子 氏（仙台市・フリーアナウンサー）
②問題解決能力	杉山 厚志 氏（仙台市・経営コンサルタント）